

沖縄県医師会医学会分科会 産婦人科学会



沖縄県医師会医学会分科会 産婦人科学会会長 青木 陽一

沖縄県医師会医学会分科会として産婦人科学会に常日頃より、多大なるご支援を賜り、感謝申し上げます。

産婦人科分科会は分科会の中で最も古く、他の分科会に先立つこと10年、昭和29年6月の設立で、会員数は順調にその数を伸ばし、平成23年5月現在200名を超えております。歴代諸先輩の偉大さに、ただただ感服させられるばかりです。歴代会長は川平昌暁先生、竹中静廣先生、中山道男先生、金澤浩二先生と引き継がれ、平成18年4月からは、私とその責務を担当させていただいております。

産婦人科学会は、沖縄産科婦人科学会と沖縄県産婦人科医会の連携により、産婦人科の日常診療に関わる問題、学術的事項等の事業を行っております。学術的事業として、年2回の沖縄県医師会学会への参加はもとより、年1回の学術集会の開催と学会誌の発行、日本産科婦人科学会の産婦人科専門医取得・維持のための定例研修会を1か月に1回のペースで開催しています(表)。学会誌は年々投稿数、掲載論文数も増え、特に後期研修医の先生の投稿も非常に多くなっています。これは、産婦人科専門医受験資格要項に筆頭著者としての論文が加えられた影響もあるかと思えます。会員の活発な論文執筆、学会発表という学術活動への参加、沖縄県の産婦人科の学術向上の一助としています。登録事業として、婦人科悪性腫瘍登録、絨毛性疾患登録を県内の先生のご協力により行っています。昭和61年1月から絨毛性疾患地域登録が始められ、沖縄県における絨毛性疾患の実態把握に大いに貢献しています。婦人科悪性腫瘍登録は平成18年から開始しましたが、すでに4

年間の登録が集計され、非常に貴重な統計であり、今後さらに、その重要性が増すと思えます。沖縄の産婦人科学術レベルが、さらに向上するよう努力していく所存であります。

県医師会からは、産婦人科医療を円滑に行うために常日頃よりご支援、ご指導をいただいております。

県医師会母体保護法指定医師審査委員会では、母体保護法指定医師の審査を、ほぼ毎月していただき、母体保護法に則った産婦人診療の遂行のためにご援助をいただいております。

産婦人科医師不足の問題に関しても、平成18年度の県開催の沖縄県産科医療連携等検討会での産婦人科医療の集約化及び連携についての報告書作成に対して、医師会から貴重なご意見を賜ったこと、また平成19年度には医師会開催の産婦人科医師確保に関する懇談会、さらに今年に入っても離島・僻地医療での産婦人科医師確保に関する懇談会でも、親身にまた真剣にご討論いただき、方向性をしっかりと示していただいたこと等、大変心強いご支援を頂いております。

産婦人科医師の充足状態、安定感はまだ不十分ではありますが、より安定した産婦人科医師の充足を満たすためには、近年その比率が著しく上昇している女性医師の継続就労、復帰支援は非常に大切なこととあります。女性医師の継続就労、復帰支援に関して、県医師会女性医師部会からは、女性医師バンクをはじめ、産休、育休期間の女性医師のための就労継続・復帰のサポートについてご支援、ご助言を頂き大変感謝しております。

周産期医療に関しても、沖縄県は県立病院2

か所に設置された総合周産期母子医療センターを中心に大学病院を含め、本島内の5施設のNICUを有する病院が沖縄県周産期ネットワーク協議会を形成し、母体搬送・新生児搬送を円滑に行い、沖縄県全体の周産期医療は連携が非常に上手く行われていると思います。この協議会設立においても医師会からご助言、ご支援を頂きました。

産婦人科事業の運営において、医会と学会はその駆動のための大きな両輪であり、医会・学会の合同理事会、合同講演会等、密に連絡を取

り合い、事業をすすめております。さらに今回一部ではありますがご紹介した県医師会からのご支援でもわかりますように、その事業推進のためには、県医師会のご指導、ご尽力は欠くことのできないものであります。沖縄県の産婦人科医療がますます発展・向上するよう、これまでのご支援に感謝申し上げますとともに、今後ともご指導の程、よろしくお願いいたします。産婦人科学会といたしましても、学究的・学術的で活気に満ちた産婦人科医療が沖縄県に提供できるよう、さらに頑張る所存であります。

平成22年度 研修会集録

| 月 日 | 講 師 | 講演会名称および演題 | 場 所 |
|----------------|---|--|-------------------------|
| 平成22年 5月28日 | 寺川直樹 日本生命済生会付属 日生病院 院長 | 「子宮内膜症の悪化とその対策」 | ロワジールホテル那覇 |
| 6月10日 | 第9回 周産期症例検討会 | | 県立南部医療センター こども医療センター |
| 6月13日 | 第110回沖縄県医師会医学会 | | 沖縄県医師会館 |
| 6月16日 | 金城国仁 県立中部病院 産婦人科 医師 | 「妊婦の肺気腫について」 | 県立中部病院 |
| 7月16日 | 田中祐吉 神奈川県立こども医療センター 病理科 | 「胎盤・未熟児・新生児の病理解剖」 | 県立南部医療センター こども医療センター |
| 8月13日 | 村尾寛 県立南部医療センター・こども 医療センター 産婦人科 部長 | 「妊婦関連死亡」ってなんだろう？ ー固定観念を解き放とうー | 沖縄ハーバービューホテル |
| 9月12日 | 池ノ上克 宮崎大学医学部附属病院 病院長 | 「分娩時胎児管理ー最近の話題ー」 | ラグナガーデンホテル |
| 10月15日 | 岩坂剛 佐賀大学医学部 産科婦人科学 教授 | 「子宮頸癌予防ワクチンの現状」 | 沖縄県医師会館 |
| 11月5日 | 北出真理 順天堂大学産婦人科講座 准教授 | 「腹腔鏡手術の最前線～重症子宮内膜 症手術療法と薬物療法のコラボレ ーション～」 | ザ・ナハテラス |
| 11月11日 | 第9回 周産期症例検討会 | | 県立南部医療センター こども医療センター |
| 11月20日 | 第17回出生前診断研究会 | | 沖縄小児保健センター |
| 11月17日 | 後藤禎人 県立中部病院 産婦人科 医師 | 「妊婦の尿路感染症」 | 県立中部病院 |
| 12月12日 | 第111回沖縄県医師会医学会 | | 沖縄県医師会館 |
| 12月23日 | 佐久本 薫 琉球大学医学部附属病院周産母 子センター センター長 | 「分娩周産期の救急～妊産婦死亡を0 にするために～」 | ロワジールホテル那覇 |
| 平成23年 3月2日 | 松岡隆 昭和大学医学部 産婦人科学教室 講師 | 「胎児形態異常のスクリーニング～大 切なのは何を診るかでなく、どう診 るかである～」 | ロワジールホテル那覇 |

沖縄県内科医会



沖縄県内科医会 会長 伊集 守政

沖縄県内科医会は、「会員の生涯教育、地域医療、医療経営、医政についての研究及び会員相互の親睦を図る」ことを目的として設立されております。

現在、会員数は150名で開業医が85%、勤務医が15%の割合です。執行部は会長、副会長、理事8名、監事2名で構成され、会長の任期に合わせて2年に1回、総会を開催しております。毎月1回、定例理事会を開催し、生涯教育の企画等会務の運営が協議されております。

医会の歴史を振り返ってみると、昭和40年4月、沖縄県内科医会の前身である沖縄内科会が57名の会員で発足しておりますが、本土復帰前はまだ現金給付保険の時代でした。島内に医科大学はなく教育病院の施設も限られ、厳しい医療環境でしたが、医療の質を担保する為、開業医が中心となり、内科会が設立されております。当初から本土の大学病院等より各分野の専門家を講師として招き、研究会活動が精力的に行われていた事が記録に残されております。当時は、殆どの開業医が入院室を持ち、患者さんの転帰が完了するまで診ており、従って、内科医には総合的な医療が求められ、医会活動もそのような方向性で取り組まれておりました。

設立より半世紀近くが経過した現在、内科医会の会員数は150名となっておりますが、殆どの会員は他の学会にも属しており、医会を預かる執行部としては、如何にして会の独自性を発揮し、会員にとってメリットのある運営を行うか知恵を絞っているところであります。

その中で、「生涯教育の充実」を最も大切な会務と位置づけ、3人の担当理事を配し、臨床に直結した独自性のある講演会、技術講習会など企画しております。最近の新しい試みとしては、糖尿病診療を中心とした「症例検討会」を定例理事会後に実施致しております。また、「沖縄県内科医会季刊ニュース」を発刊し、会員施設から病院へ紹介された症例について、毎号一例、連携病院の担当医師による「病診連携症例報告」を掲載し、会員の診療にリアルに反映できるよう努めております。

内科医会の活動として、県医師会関連では、年2回開催される医学会総会の特別講演、シンポジウム、ミニレクチャー等のテーマの提案や座長の推薦。社保・国保の診療者代表保険審査員の推薦や沖縄県行政関連の各種委員等の推薦。県医師会誌の原稿執筆者、新聞の医学関連記事の執筆者の推薦。

さらに、沖縄県内科医会は日本臨床内科医会の県支部としての活動もあり、日臨内の「インフルエンザの予防・診断・治療に関する全国調査研究」等への参画や「日臨内専門医・認定医」の第一次審査の実施、日臨内医学会総会での演題発表も積極的に行っております。

毎年1回持ち回りで開催される九州各県内科医会連絡協議会（九内協）、九州各県内科審査委員懇談会（九内懇）への参加も重要な会務の一つです。九内協は医療保険等広く国の医療制度に関わる事を討議し、九内懇は保険審査に関して、各県の社保、国保の審査状況を事例に則して協議しております。事後に会議録を当会の会員、県医師会、社保、国保の審査委員会に配布致しております。

以上、内科医会は、会員の診療支援や会員間交流の為、幅広い活動を行っておりますが、会の活性化の為には、若い医師の入会が必要です。勤務医の先生方、特に近い将来開業を考えている方、内科標榜の開業医の先生方、ご入会を宜しくお願い致します。沖縄県内科医会は、日本臨床内科医会とセット入会となっておりますので、当会に入会すれば、日臨内会誌が年4回と日臨内ニュースが年6回届けられます。会誌やニュースは臨床医にとって非常に役立つ内容となっております。

最後に、県医師会執行部への要望ですが、各分科会は学術団体としての県医師会を側面から支えて活動しております。しかし、十数年以上も据え置かれたままの現行の助成金では十分な活動はできません。分科会の位置づけをしっかりと行い、各分科会の活性化の為、更なる人的、物的なご支援をお願い致します。